

“Creepy Nuts” One Man Tour 「かつて天才だった俺たちへ」

高倍率レンズやグローバルシャッター
ステージ上の小型リモートカメラなどシステムカメラの強みをフル活用



監督
Hiroya Brian Nakano 様



撮影監督
田中 伸吾 様

2021年3月17日に横浜・ぴあアリーナ MM で行われた、Creepy Nuts の全国ライブツアー「かつて天才だった俺たちへ」の公演収録ならびにライブ配信において、HD ポータブルカメラ HDC-3100、マルチパーパスカメラ HDC-P43 などソニーのシステムカメラが中心に使用されました。

HDC-3100 と HDC-P43 を中心に S-Log3 で多機種を一体化

今回、HD ポータブルカメラ HDC-3100 とマルチパーパスカメラ HDC-P43 を使用したのは、横浜みなとみらいの「ぴあアリーナ MM」でのライブコンサート収録・配信です。当日は3媒体でライブストリーミング配信を行ったほか、全国でのライブビューイング用の配信も同時に行いました。カメラ構成としては、客席後方センターに HD ポータブルカメラ HDC-3100 を3台、舞台上のリモートカメラにマルチパーパスカメラ HDC-P43 を1台、ステージ前のセンターに CineAlta カメラ VENICE を1台、クレーンやドリーなどの特機を中心に CineAlta 4K カメラ PMW-F55 を3台、舞台袖に XDCAM メモリーカムコーダー PXW-FX9 を2台、客席中や客席後方の固定カメラに XDCAM メモリーカムコーダー PXW-FS7 を4台、ステージ上の DJ 用固定仕込みカメラとジンバル用としてデジタル一眼カメラα7sIII を2台、計16カメで臨みました。制作や配信はフル HD ですが、レンズについては、HD 制作ではあるものの、少しでも美しく撮りたいということで、全て4K対応レンズを使用しました。カメラの機種こそ様々なものが混在していますが、全てソニーで統一し、S-Log3 フォーマットによる共通化したワークフローで撮影・収録を行いました。配信本線は、S-Log3 出力に LUT を一括適用する方法をとりました。

当日の運用では中継車を入れており、HDC-3100 と HDC-P43、PMW-F55 については、光カメラケーブルで中継車と接続し、色調整や IRIS 制御については、中継車側から VE さんがリモートコントロールを行いました。従って、一部のカメラ以外は中継車による一般的な中継スタイルでの運用を行っています。



箱型高倍率ズームレンズ対応とグローバルシャッターが HDC-3100 の決め手

今回、HDC-3100 を客席後方センターカメラに据えた理由は、カメラポジションからステージまで物理的に距離があり、100 倍を超える高倍率の箱型ズームレンズを使用したかったからです。HDC-3100 は大型レンズアダプターに対応していませんが、レンズサポーター経由で箱型ズームレンズを装着して使用しました。3 台の HDC-3100 のうち、2 台に 107 倍の 4K 対応ズームレンズを装着し、残り 1 台には 46 倍のポータブル型 4K 対応ズームレンズを装着して運用しました。ソニーには、数多くのシステムカメラがありますが、その中で HDC-3100 を使用した理由は、F12 の高感度であり、階調なども良く、特にグローバルシャッター機能に対応していたことがポイントです。



ライブコンサートでは、レーザーやフラッシュなどの照明演出が多用されますが、ローリングシャッターだと見たままに映らないことがあり、リハーサル時に各カメラの ECS (Extended Clear Scan) 機能 (微調整が可能なシャッター速度設定) を細かく刻んで追い込み、不自然な映り方をしないように予め調整を行っておく必要があります。グローバルシャッターのカメラであれば、見たままに映ります。ライブコンサート用としてはグローバルシャッターのカメラが最適で、HDC-3100 はこの点でピッタリでした。

リモコンカメラに適し、小型さと実績が決め手となった HDC-P43

マルチパスカメラ HDC-P43 の使用のきっかけは、2020 年 11 月に、日本武道館で行った Creepy Nuts のライブコンサート収録時に、制作技術会社からステージ上のタワーカム搭載用として推薦を受けて使用し、小型カメラならではのアングルで撮影でき、システムカメラ同様のオペレーションが実現できることから、「このカメラいいな」と思ったことです。今回はステージ上中央、演者の背後から観客席に向けて設置しました。ステージ上ということで人が入れないこともあり、全てを遠隔操作したかったため、リモートヘッド (雲台) に搭載して設置しました。HDC-P43 は通常のシステムカメラに比べて大幅に小さく、ステージ上に置いても違和感がありません。単に小ささだけであれば、αシリーズなどの選択肢もありますが、レンズ倍率の制約やオペレーション含めた遠隔操作がしづらいこともあり、「システムカメラだけど小さい」ということで HDC-P43 を選びました。ライブコンサートにはとても使いやすいカメラです。

ラージセンサーカメラとの混在運用でも威力を発揮

今回使用したカメラのうち、HDC-3100 のみが HD カメラで、そのほかは全て 4K カメラでしたが、他のカメラに比べて見劣りするようなことはありませんでした。解像感や発色も階調も十分にあり、S-Log3 のワークフローで揃えて運用をしている限り、違和感などはなく、想像以上に綺麗でした。

また、HDC-3100 と HDC-P43 以外は全てラージセンサーカメラでしたが、特に HDC-3100 については、高倍率ズームレンズで主に望遠のショットに使用していたこともあり、被写界深度も十分浅くとれ、ボケ味も十分にあり、倍率とボケ味を両立した 2/3 インチカメラでしか撮れない映像を撮ることができました。

HDC-P43 については、観客席を挟んだ 2 ショットや、スポットライトを当てる 1 ショットなど印象的な映像を撮ることができました。HDC-P43 で撮ったバックショットは画力 (えぐから) が強く、パンチがあり、演出上も長い時間を使うことができました。特機だけでなく、ステージ上でも、今後 HDC-P43 は使っていきたいカメラだと感じました。

リターンやタリーに対応するシステムカメラの安心感

これまで、ライブコンサート収録では、「大きく寄りたい」などがなければ、XDCAM メモリーカムコーダーの PXW-FS7 や PXW-FX5、ハンディタイプの PXW-Z280、ジンバル搭載用では α シリーズ、リモートコントロールが必要になるクレーン搭載や高倍率ズームレンズを使いたい場面では、ショルダー型の XDCAM メモリーカムコーダー PXW-Z450 や PXW-X400 を使ってきました。

今回、システムカメラを使用した理由は、公演会場内の至る場所に、中継車との間を接続するための光カメラケーブル用の端子盤が用意されており、それを積極的に活用したかったからです。

システムカメラの魅力は、カメラマンにリターン映像やタリーをちゃんと返せることです。カメラマンにはリターン映像をできるだけ見てほしいので、それができるのはシステムカメラならではの魅力です。また、オンスクリーン表示のある出力、ない出力が同時に出せるのもシステムカメラならではのことで、そういった点で、システムカメラには特有の安心感がありました。今回 HDC-3100 を中心とする構成でしたが、今後は 4K 対応のマルチフォーマットポータブルカメラ HDC-5500 など使っていきたいと考えています。



ラージセンサー搭載のシステムカメラにも期待大

これまで、音楽ライブ制作でシネマ系カメラを積極的に使ってきた理由は「ラージセンサー」を搭載していることです。映像の美しさに加え、ラージセンサー特有の浅い被写界深度を活かし、例えば「フォーカス送り」などビデオグラファーによる表現の幅を広げてくれるからです。シネマカメラがシステムカメラのように使えてほしいという想いもありますが、システムカメラの使い勝手でラージセンサーの映像表現ができればベストだと思います。システムカメラは、多くのビデオグラファーが使い慣れていて、音楽ライブ制作に最も適したスタイルだと思います。

先日、グローバルシャッター機能を有し、Super 35mm のラージセンサーを搭載した新しいコンセプトのシステムカメラ「HDC-F5500」の 2021 年内登場についてソニーから予告がありました。これはまさに音楽ライブ制作に決定打となり得る商品だと思います。こういったラインナップが揃えば、オールシステムカメラでの収録も可能になると思いますので、とても楽しみにしています。



HD ポータブルカメラ

HDC-3100

<https://www.sony.jp/system-camera/products/HDC-3100/>



マルチパーパスカメラ

HDC-P43

<https://www.sony.jp/system-camera/products/HDC-P43/>



マルチフォーマットポータブルカメラ

HDC-F5500

<https://www.sony.jp/system-camera/products/HDC-F5500/>

システムカメラの商品情報やお客さま事例をご覧ください。 [sony.jp/system-camera/](https://www.sony.jp/system-camera/)

ソニーマーケティング株式会社 / 〒108-0075 東京都港区港南 1-7-1

購入に関するお問い合わせは

業務用購入相談窓口 フリーダイヤル ☎ 0120-580-730

●受付時間 9:00 ~ 18:00 (土・日・祝日、および弊社休業日は除く)

2022年3月現在